ISSN 0385—7506 vol. 17, No.1 1992

東北大学附属図書館報

木這子

BULLETIN OF THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

—木這子（きぼこ）とは東北地方の方言で，こけしのこと。小芥子這子（こけしぼうこ）—

目　次

○特集・図書資料の図書館間相互貸借
　ＩＬＬローカルシステムの開発……1
　T-LINES-ILLシステムを運用して……9
○大学図書館の思い出と工学分館長抱負……14
○学内特殊コレクション紹介……16
　ヴント文庫について
○記念資料室だより……19
○附属図書館商議会商議員名簿……20
○第23回国立大学図書館
　　東北地区協議会総会……20
○人事異動……21
○図書館利用のオリエンテーションを実施…21
○会　　議……22
○お知らせ……22
○編集後記……22

特集・図書資料の図書館間相互貸借

ＩＬＬローカルシステムの開発

附属図書館相互利用掛長　松　井　好　次

1.　はじめに

本年4月1日から，学術情報センターが開発したILLシステム（以下「NACS-IS-ILL」という）の運用が開始され，全国174機関，319図書館間でオンラインによる文献複写・現物貸借の申込，受付が一斉に始まった。

他方，これと連動して東北大学では昨年来から開発中のILLローカルシステムが稼働を開始した。この稿ではそのILLローカルシステムの紹介と開発にあたっての留意点，経緯等について述べてみたい。

2.　ローカルシステム開発の目的

①　ILLデータの一元的管理による効率化

平成2年度における東北大学の複写の依頼

・受付件数は約2万3千件であり，このうち国立大学は約1万3千件で，全体の約57%を占める。NACSIS-ILLの運用開始時の参加館は必要な通信ソフト等の関係から，当面学術情報センターの目録システムの参加館の枠内に限られる。すなわち国立大学のほとんどと，若干の公私立大学間の依頼・受付のみがNACSIS-ILLを通して行われ，それ以外は従来通り郵便によるものとなり，この部分は本学の場合，申込・受付件数全体の約43%に当たる。医学分館においては，NACSIS-ILLを経由しない依頼・受付が実に60%にも達する。これは今までの作業の二分化を意味し，従来通りのマニュアルによる作業方法ではILL業務を効率的に行うことはきわめて困難となる。そこでILL業務を一元的に管理するローカルシステムの開発が是非とも必要となり，この開発によってはじめてILLデータの有効活用ができ，検索や統計，会計処理の業務が容易なものとなり，ILL業務の効率化が可能となる。またこのローカルシステムの開発により，従来の作業では不可欠だった依頼簿，受付簿等の帳簿類から独立ができ，それらの記入が不要となる。

② 申込，受付がオンラインになることへの対応

NACSIS-ILLの運用が開始されると複写依頼がオンラインで行われるため，従来の文献複写依頼書を使用しなくなることから，受付館においてはこれに代わる帳票としての受付処理票をプリントアウトする必要がある。受付件数の少ない図書館においては，画面のハードコピーでも対応できるが，大量受付館の場合は，NIP等から一括で打ち出すことができないとILL作業を迅速に行うことが困難となり，受付処理票の作成機能を持ったローカルシステムがどうしても必要となる。

③ 個人単位の仕様額明細票の作成

NACSIS-ILLは，基本的には参加館単位でのデータ処理を行うことが目的のシステムであり，それより下の段階の個人レベルの処理（例えば，利用者単位の使用額明細書作成等）をセンターシステムであるNACSIS-ILLに望むことはこのシステムの基本的な目的を果たせなくするおそれがある。個人レベルのデータ処理はむしろそれぞれの参加館のローカルシステムが担う部分であると考える。したがって，もし国立大学間校費複写経費の算出機関が複写データ処理センターから学術情報センターへ代わったとしても，現行通り参加館別収支明細表しか提供しないと予測される。今までは，文献複写依頼書C複写経費通知書で，この申込者単位の使用明細を算出することが可能であったが，今後この方式を続けてゆくことは非常に困難である。とりわけNACSIS-ILLの2年次開発機能分としてのNACSIS-IRを利用した研究者直接ILL申込サービスが運用されたときには，使用明細の算出の根拠になる帳票自体が無くなってしまう。このため個人レベルのデータ処理を行える機能を持ったローカルシステムがぜひとも必要となる。

3. ローカルシステムの機能

ローカルシステムが持つべき基本的な機能として以下にあげる7つの機能を用意した。

① NACSIS-ILLデータからのローカルILLDB作成

これはNACSIS-ILLデータをローカルシステムに取込む機能である。この機能は既に目録システムにおいて実現されているが目録システムの場合は，1度取込めば済むのに対し，ILLの場合はデータが付け加わる都度，取込んでかつ更新していく必要がある。この

ため目録のときのように取込むのにその都度キーを押しているのでは，操作ミスのため取込み忘れが生じ易い。また目録の場合はたとえ取込み忘れが生じたとしても，データは学術情報センターにそのまま残っているので何時でも取込直しが可能であるが，ILL の場合はシステムが基本的に相手館とのデータ交信システムであるためレコードの状態が遷移し，一度取込み忘れをしたら後で容易に取込み直しができない場合がある。そこで確実にデータ取込みを行うため，システム的にダウンロードする機能，すなわちコマンド解析による自動ダウンロード機能を開発した。これは NACSIS-ILL のレコード状態と投入されたコマンドのマッチングでデータを自動的にローカルシステムに取込む機能で，例えば，レコード状態が「準備中」で投入されたコマンドが「ORDER」のときはそのレコードを取込み，かつローカル DB でのレコード状態を「依頼済」にかえるという機能である。この機能により NACSIS-ILL のデータは取込みを意識しなくても，確実にローカルシステムに取込まれ，取込むのにその都度キーを押すという手間を省くことが可能になった。

② NACSIS-ILL を経由しないローカル ILL 処理機能

本学の場合，NACSIS-ILL を経ない ILL の依頼，受付は全体の43%，医学分館においては60%を占め，この部分を従来通りの作業方法で行っていた場合，業務の効率化を望めないことは既に述べた。そこでローカル単独の依頼・受付をシステムで処理できる機能を開発した。その際，依頼伝票もしくは受付の帳票が存在することから，データ入力の画面では，デフォルト値の設定，前データの引き継ぎ等により，最小限度の労力で済むよう考慮した。また，学内利用者の場合は利用者 ID の入力のみで，所属，氏名，身分等の入力を不要とし，さらに後述のローカル参加組織ファイルを持つことにより，相手館に関するデータ入力の省力化を図った。

③ 受付処理票の作成

受付処理票（図２）の役割については既に述べたとおりであるが，これの開発に当たっては次の点に特に留意した。

１つは，受付処理票（＋の印を境に，左側の ILL 作業の際実際に使用する部分，すなわち作業用の部分と右側の複写物を送付する際，一緒に送ってやる部分，すなわち送付用の部分から成る）はできるだけ共通で使えるフォーマットにしようとしたことである。とりわけ送付用の部分は全国に流通するので，統一された様式が望ましく，学術情報センターの ILL 開発協力者会議でも時間をかけて検討されたところであるが，意見がまとまらず，日本電気のユーザ館だけでも共通の様式にしようと各ユーザ館の意見をとりいれた上で，まとめたものである。

２つめは，現行の窓付き封筒がそのまま使えるように，送付部分を３つ折りにすると葉書の大きさになるようにし，そこに送り先の住所が打ち出されるようにした（これは北大の宇野専門員のアイデアである。）このおかげで，従来と同じように宛名を書く手間が省け，作業の迅速さを維持することが可能になった。

左側の作業用の部分については，プリントアウトされると同時に学内データベースの検索結果が打ち出されるようにし，また上部の葉書大の部分で作業を行うための最低限情報がつかめるように考慮した（これは大阪大学の要望による）。さらに大きさを工夫して，そのままでも11”×９”のコンピュータバインダーに綴じることが出来るようにし，ファ

イリングの簡便さをはかった（これも北大の宇野さんのアイデア）。

④　利用者個人単位の使用明細表の作成

これの必要性についても既に2の③で述べたので，利用者毎に明細をとりまとめる仕組みについてふれる。

NACSIS-ILL の OLDAF のフィールドに申込者 ID を入力しておき，ダウンロード後その ID をもとに利用者マスタファイルをみて，学部毎，個人毎に区分けし，それぞれ合計を出すようになっている。

⑤　処理状況別リストの作成

これは ILL の申込・受付データが今どういう状態にあるかを処理状況毎にリストを出力する機能である。状態によってリストを出す目的が決まっており，それに応じた種類の月日でソート出来るようになっている（例えば複写を受付けたものが，すでに発送しているかをチェックするためのリストは受付日順にソートされ，より以前に受付けたものからリストアップされる）。これによって処理状況の確認ができ，処理のし忘れを防ぐことが可能となった。

⑥　各種統計の作成

ここでは日本図書館協会，日本医学図書館協会，文部省の図書館調査等の調査項目を基に，次の5種類の統計が用意されている。

(1)　相互利用統計表
(2)　部局別利用者別依頼件数一覧表
(3)　館種別依頼・受付件数一覧表
(4)　館別依頼・受付件数一覧表
(5)　文献複写収入実績表

個々の図書館によって必要とする統計はそれぞれ異なると考えられるので，最も基本的なもののみとし，かつプリントアウトされた形でそのまま使うのではなく，各種統計の基礎的データとして利用されるよう考慮されている。

⑦　ローカル参加組織ファイル

会計処理（とりわけ支払・請求処理）および統計処理を行う際，図書館毎に条件が異なるため，それぞれの図書館専用のローカルな参加組織ファイルが必要となった。他方，これを持ったことにより，前述のように NACSIS-ILL 経由でない申込・受付（ローカル単独）処理のデータ入力が簡便になった。

4.　ローカルシステム開発の経緯

①　基本仕様（案）作成期

ILL ローカルシステムに関しての最初の話し合いの機会が持たれたのは91年4月12日であった。そこでは，この4月運用開始の NACSIS-ILL の紹介，ならびにそれに対応する ILL ローカルシステムの位置付けおよび持つべき基本的機能について話し合われ，それは，「T-LINES（東北大学附属図書館情報処理ネットワークシステム）における ILL 対応（案）」(91.4.25) というかたちでまとめられた。その中では，ローカルシステムの基本的機能として受付リスト，金額精算リスト，使用明細リストの作成が上げられ，このシステムが日本電気（株）（以下「NEC」という）の大学図書館向標準パッケージ：ALIS(Academic Library Information System)* の中のサブシステムとして開発されるべきだとされている。

また開発スケジュールは以下のとおりで，92年4月の稼働をめざすものであった。

平成3年

6月～7月中旬　基本仕様（案）作成
8月まで　NEC ユーザ間の調整期間

* このパッケージは，北海道大学，立命館大学，東北大学の協力のもとに NEC が開発したものである。

9月上旬　　基本仕様決定

9月～10月　基本設計及びチェック完了

11月～12月　詳細設計・製造

平成4年

1月　ユーザテスト

2月　テスト結果吸収

3月　インストール作業

この後さらに話し合いをもつ一方，5月には図書館におけるシステムの開発体制作りを行い，図書館システムの更新，ソフトウェアのバージョンアップ，ILL ローカルシステムの開発作業を行う「システム開発プロジェクト」（主査：システム管理掛長）と，本学における学術資料の効率的流通を図り，学術情報センター ILL システムの試行テストに対応する「ILL プロジェクト」（主査：相互利用掛長）が設置された。「システム開発プロジェクト」の中で ILL ローカルシステムの開発は，阿部（医学分館運用掛長），佐藤（システム管理掛長），松井（相互利用掛長）が主に担当することとなった。

また話し合いの結果は「ILL システムに対応したローカル処理システム（案）Ver. 1. 0」(91.5.15) としてまとめられ，NEC のユーザ館および学術情報センターに送付して意見を伺った。内容は，処理機能の追加（自動ダウンロード機能，ローカル精算ファイルのオンライン処理）およびローカルシステムで個人レベルの会計および統計処理を行う必要上から，NACSIS-ILL にローカル会計情報フィールド（OLDAF）の新設の要望等，からなっている。

ILL 業務の検討を進めていくうちに，NACSIS-ILL を経由しない申込・受付が大きな比率を占めることが明らかとなる一方，NACSIS-ILL の運用開始は従来の ILL 業務をシステムで処理されるものと全くマニュアルで処理されるものと二分化することがわかり，ILL 業務の一元的な管理をはからなければ，業務の効率化が望めないということがだんだん分かってきた。そこで NACSIS-ILL を経由しない申込・受付の方もローカル処理としてシステムで処理できるよう機能拡張し，それを「ILL システムに対応したローカル処理システム（案）Ver. 2. 0」(91.7.18) としてとりまとめた。

さらに会計処理（とりわけ複写料金の請求・支払処理）を行う際，図書館によって相手館との関係が異なることから（例えば徴収猶予なのか否か，また徴収猶予番号は何番なのか等），それぞれの図書館毎にローカルの参加組織ファイルを持つ必要が生じ，その機能を追加した「ILL システムに対応したローカル処理システム（案）Ver. 2. 1」(91.8.15) を作成した。

② NEC ユーザ館間の調整

8月22日，日本電気と ILL ローカルシステムについて最初の意見交換を行った。その後，9月12日，10月8～9日と打ち合わせを続け，「ALIS，ILL サブシステム基本設計書，ドラフト版」(91.10.18) ができあがった。これは機能概要，帳票設計（一部），画面遷移図，画面設計，機能説明の内容で構成されていた。

このドラフト版は日本電気のユーザ館に配られ，それに対する意見等を持ちよって，10月29日に東京田町の日本電気森永ビル1710会議室で，北大（宇野），東北大（佐藤，松井），立命館大（郷端），大阪大（伊藤），九州大（浜崎），佐賀医大（故選）および日本電気のシ

ステム開発担当者が集まって打合せが行われた。この打合せは朝の9時から夕方の7時までの10時間にわたり，ILLサブシステムの詳細な部分に至るまで検討がなされた。またそこでは今後のシステムの開発とシステムの基本設計に関する大学側の窓口を東北大学が担当することが決められた。

③　基本仕様決定期

これをうけて本学はNECと11月8日，同21～22日，12月3日と打合せを行い，12月初旬にはプログラムのコーティングが開始された。

一方，NACSIS-ILLのモニターテストが，92年4月の本稼働を前に11月11日～22日の2週間にわたって行われたが，これには以下の理由からシステム的に特別な対処をせず，ILLローカルシステムの92年4月の稼働を目指して全力投球することとした。その理由とはスケジュール的にモニターテスト向けの対応をしている余裕がなかったことが第一の理由であるが，まだシステム環境が整っていないところでのモニター向けの一時的な開発は，労力の重複を招く危険性が十分あったからである。

④　ユーザテスト及びインストール

2月の中旬にはローカルシステムの運用テストが可能になり，障害や不都合な箇所の洗い出しが行われた。このとき出た障害や仕様変更の必要な箇所は100ケ所にも上った。これらに対処しながら3月に入っていよいよ各大学へのインストールが開始され，4月1日にはNACSIS-ILLの運用開始と同時にローカルシステムもスタートをきることができた。

⑤　研修会，説明会等

また，システム開発を行う一方では，それと平行してILL担当者向けの研修会や説明会も開催された。

昨年10月25日の東北大学附属図書館職員総合研修会では，学術情報センターの雨森事業部長，甲斐専門・電子情報係長を招き「学術情報センターとILLシステム」というテーマで講演および学術情報センターのコンピュータに接続してのNACSIS-ILLの実演が行われた。これは東北地区大学図書館協議会と共催で開催されたもので，東北地区の大学図書館員29名を含む97名の参加があった。

さらに本年1月24日には，学術情報センターから雨森事業部長，小西目録情報課補佐ほか2名が来仙し，東北大学を会場にILLシステム全国説明会（東北地区）が開かれた。このときの参加者には，大学関係者だけでなく，試験研究機関および県立図書館のILL担当者もおり，説明会後の端末に直接ふれての実習には，皆積極的に参加し，NACSIS-ILLへの関心の高さがうかがわれた。参加者は全部で51名であった。

システムの稼働を目前にした本年3月24日～26日には3日間にわたり，直接ILL業務を担当している本学職員向けの講習会が開催された。その内容は，NACSIS-ILLおよびILLローカルシステムのシステム操作および実例を基にした実習で，4月1日以降システム稼働時に戸惑うことなく，業務を確実に遂行できるようにと計画されたものである。

5.　おわりに

学術情報センターでNACSIS-ILLの再立ち上げを担当し，かつ今回のILLローカルシステムの開発に立ち会えたことは，ILL

システムの開発をセンターからローカルに至るまで，一通り立ち会ったことになり，幸運であった反面，何事も始めてのことばかりで戸惑うことばかりであった。ここまで来れたのは関係者各位のご理解とご協力の賜と感謝する次第である。とりわけ学術情報センターの甲斐専門・電子係長，細川係員および日本電気のユーザ館のILL担当者の方々にはお世話になり，ここで改めて感謝を申し上げたい。

システムが稼働してから早2ヶ月が過ぎたが，当然のことながらいまだ安定には程遠い状態で，仕様検討時には予測もつかなかったことが，実際に稼働してみるといろいろ出てくるし，また予想もしなかったプログラムの障害が地のプログラムの仕様変更を招いたりする等，やっとヨチヨチ歩きをはじめたというのが現状である。過去にあまり例の無いシステムであるため，当面の間は試行錯誤が続くと思われるし，NACSIS-ILLが予定している来年度の機能拡張に対応して，（1）学術情報センターID→学内ID変換機能，（2）依頼処理票作成機能，（3）オンラインでのデータ問合せ機能等の機能追加も必要であることから，まだしばらくはこのシステムとの付き合いが続くと思われる。今後も関係者各位の更なるご理解とご支援の程をお願いする次第である。　（まつい　よしつぐ）

1000　　＊＊＊　ＩＬＬ管理システム　＊＊＊

＜依頼処理＞
１．依頼
２．到着／会計／返送

１１．ＩＬＬＤＢメンテ
１２．参加組織ファイルメンテ

１３．ＩＬＬ使用額一覧表出力

＜受付処理＞
３．受付
４．受付／会計／発送
５．返送受領

＜帳票出力＞
７．受付処理票
８．処理状況別リスト

３０．統計処理

処理指示　□□

入力者ＩＤ　□□□□□

送　信　□

ＰＦ１→メニュー

図1.　ＩＬＬローカルシステム，メニュー画面

図２

受付処理票

<LA000015879X>　　複写　1992年 4月23日
依頼番号 ：6026　　受 付 館：東北大
依 頼 日：1992年 4月22日　　所 蔵 館：東北大
依 頼 館：長大　　：国立　　本館
FA003512　　徴収期予 ：
校費 ： 電子複写　　：

書　誌：<AA0086391X>Tohoku journal of agricultural research. (ISSN=00408719)

巻　号：1 (1)
ページ：87-95　　年次：1950
論　題：Sato, R. "Biological observation on the pond smelt in Lake Kogawara 1"

コメント ：

ITEM :	B4	QNT:	5	UPRCE:	35円
CHRGE:	175円	FEE:	円		
POSTG:	120円	SUM:	円		

書 誌 続：

論 題 続：

書誌典拠 ：
所蔵典拠 ：NACSIS-CAT
依 頼 者：千田哲資
担 当 者：参考調査係 参考調査係 TEL=0958-47-111…
学内所蔵 ：　書誌ＩＤ：30010987
01.<川内地区>　1950-1989 1-39+
02.<遺生図書室>　1950-1985 1-35+
03.<医学分館>　1950-1985 1-7,8(3),9-12,13(2-4),14-21,22(1,3-4),23-35,36(1-2)+
04.<北青葉山分館>　1950-1990 1-41+
05.<工学分館>　1968-1989 19-39+
06.<農学分館>　1950-1985 1-35+
07.<環境生実>　1950-1990 1(2),2-41+

〒８５２

長崎市文教町
1-14

長崎大学附属図書館
参考調査係　　御中

<LA000015879X> 複写物 在中

担 当 者：参考調査係 参考調査係 TEL=0958-47-1111
内線=3362, 336

依 頼 №：6026　　依 頼 日：1992年 4月22日
受 付 館：東北大　　所 蔵 館：東北大
電子複写　　：
LA000015879X ： 校費
書　誌：<AA0086391X>Tohoku journal of agricultural research. (ISSN=00408719)

巻　号：1 (1)
ページ：87-95
年　次：1950
論　題：Sato, R. "Biological observation on the pond smelt in Lake Kogawara 1"

依 頼 者：千田哲資
所　属：水産学部

ITEM	:B4		返却期限：	年	月	日
QNT	:	5				
CHRGE	:	175円	到着日：	年	月	日
UPRCE	:	35円				
FEE	:	円	引渡日：	年	月	日
POSTG	:	120円				
SUM	:	円	返送日：	年	月	日

通信メモ：

住　所：980 仙台市青葉区川内
名　称：東北大学 附属図書館
TEL,FAX ：022-222-1800 2427

料金通知日：　年　月　日　料金収納日：　年　月　日
料金収納№：　　複 写 日：　年　月　日
発 送 日：　年　月　日　返 納 日：　年　月　日

東北大学附属図書館

T-LINES-ILL システムを運用して

医学分館運用掛長 阿 部 佳 市

1. はじめに

本学附属図書館は1992年4月1日からNACSIS-ILL の運用を開始した。同時にILL ローカルシステムである T-LINES-ILL 管理サブシステム（T-LINES-ILL）を構築し，運用して数カ月が経過したのでその経験を報告したい。

大学図書館間の相互利用は，文献複写，現物貸借，参考業務などが行われている。これらの依頼または回答には学術情報ネットワークのG4ファックス網や，公衆回線のG3ファックス等が利用されてきた。たとえば，ファックスによる文献複写依頼の発信には事前に所蔵館の確認が必要であったり，依頼件数が多いときはファックス送信に時間がかかったり，送信エラーが発生して送信をやり直すなど，また，G3ファックスでは，相手が回線使用中の際は接続不能という欠点もあり，機械操作に煩わされることが多かった。

NACSIS-ILL では従来の事前調査やファックスの機械操作上での負担が軽減されるようになった。それは，利用者から複写依頼があった場合，直ちに NACSIS-ILL に接続して所蔵館を検索し，依頼することができるようになったため，事前の所蔵館調査が不要となったこと，発信した依頼データは相手館が NACSIS-ILL を使用中であっても受信が可能となったこと，また，発信と受信の確認を直ちに行えることなど，端末に向かう時間は多くなったが，業務遂行の効率は向上した。

現在，全国の NACSIS-ILL に参加できる図書館は，当面 NACSIS-CAT 接続館に限られているので，NACSIS-CAT 未参加館の一日も早い参加を望みたい。

2. 医学分館における相互利用業務の実際

ここでは，NACSIS-ILL と T-LINES-ILL を利用した医学分館における相互利用業務の実際の作業状況を述べてみたい。

NACSIS-ILL と T-LINES-ILL の両システムを連動して，同時に使用できることになり，相互利用業務の処理は郵送・ファックスのほか NACSIS-ILL によるものが加わり多様化した。

医学分館では ILL システムの導入を前提とした掛内の業務見直しにより，相互利用業務の組織的強化を図った。特に，受付件数が多いため複数職員を配して業務が途切れることのないよう配慮した。

1992年4月の受付状況を見ると，全体では郵送・ファックスが63％で NACSIS-ILL は37％であったが，国立大学のみを見ると，郵送・ファックスが40％で NACSIS-ILL が60％となり逆転している。

依頼業務は，全体で NACSIS-ILL が60％で，郵送・ファックスが40％となっていて，国立大学のみを見ると NACSIS-ILL が70％であり主流の座を占めつつある。7月現在，依頼業務のほとんどは NACSIS-ILL で行わ

れていて，ファックス等の利用は未接続館に限られてきている。

基本的には相互利用業務のうち文献複写と相互貸借は，まずNACSIS-ILLで処理することにしている。

2.1 ILLシステムへの接続

NACSIS-ILLへの接続とT-LINES-ILLへの接続は図書館業務端末をリブートすることにより行うことができる。

NACSIS-ILLに接続したい場合は「T-LINESメニュー」から「3. NACSIS」を選択する。また，T-LINES-ILLに接続する場合は「1. VIS」を選択してから「東北大学図書館情報システム」のメニューで，「8. ILL管理システム」を選択する。(図－1)

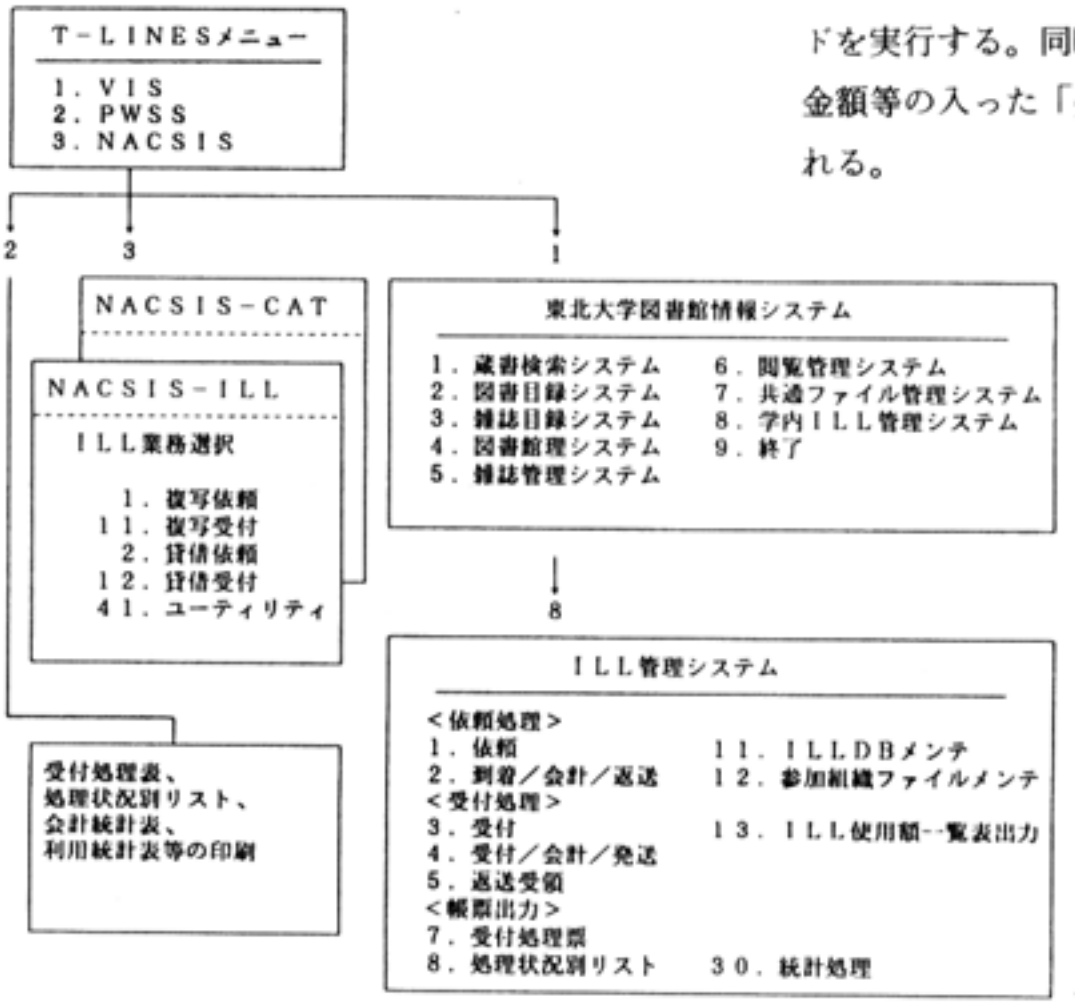

図-1 メニュー選択の流れ

2.2 NACSIS-ILLによる場合

(1) 受付業務

受付業務の一日は，まず，NACSIS-ILLに接続しMDOWNLOADコマンドを実行することから始まる。同時に自動ダウンロードされ「受付処理票」の出力を起動することにより，ローカルILLデータベース（ローカルILLDB）に「受付済」レコードとして登録し，「受付処理票」を出力する。出力する際，学内の所在検索が自動実行されその結果を「受付処理票」に出力する。したがって，担当者はあらためて所在調査をしなくてもよく，「受付処理票」をもって直ちに文献を探しに行ける。この作業は作業効率を考えて午前1回，午後2回出力している。「受付処理票」を印刷ミス等した場合は再出力も可能である。

資料はコピーして発送し，SENDコマンドを実行する。同時に自動ダウンロードされ金額等の入った「発送済」レコードに更新される。

謝絶の場合は，なるべく早く次の図書館へ回送（PARDON）するようにしている。このレコードも自動ダウンロードされ「謝絶」として更新される。

NACSIS-ILL，郵送・ファックスで受付けたものは，資料が分館の所蔵であればその日のうちに処理するようにしている。「受付処理票」の出力がそれを可能にしている。(図－2)

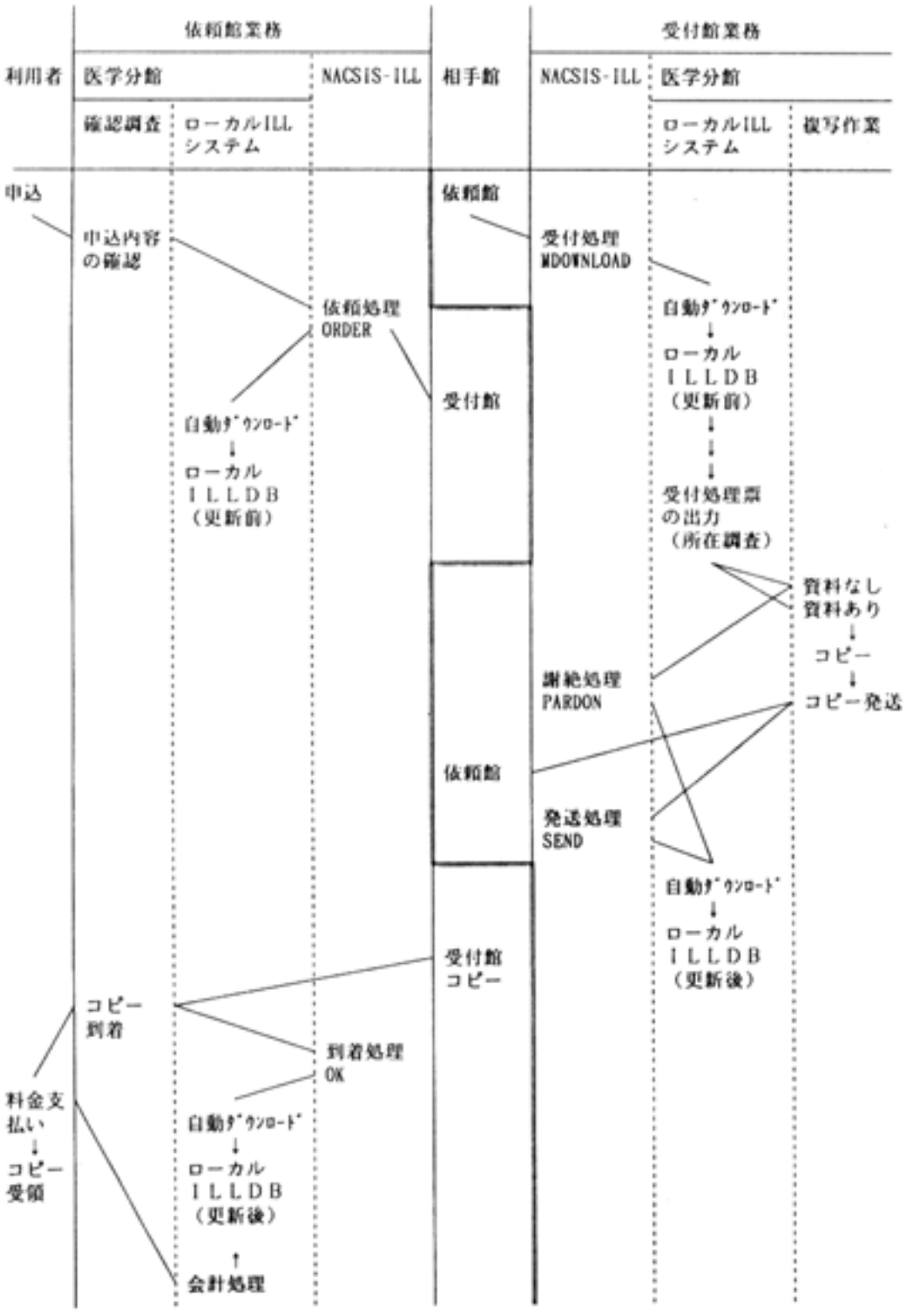

図-2　NACSIS-ILL の流れ

(2)　依頼業務

依頼業務は，依頼内容を確認の上直ちにNACSIS-ILL で依頼する。所在の確認はNACSIS-ILL で行えるので事前の所在調査が不要であり，ORDER コマンドを実行することができる。同時に自動ダウンロードされ，「依頼済」レコードとしてローカルILLDB に登録される。この段階では，受付館が決定されていないデータが登録される。なぜなら，NACSIS-ILL では複数館へ同時に依頼することができるからで，1番目の図書館が謝絶しても自動的に2番目の図書館へ回送され，その図書館がSEND コマンドを実行した時点で受付館が決定されるからである。

依頼したコピーが到着し，それが依頼したものであることが確認できたときは OK コマンドを実行する。同時に自動ダウンロードされ，受付館等のデータが入った「到着済」レコードに更新される。コピーを利用者へ渡し，料金を受領した場合は T-LINES-ILL で会計処理を行い，レコードを更新する。

NACSIS-ILL で処理した受付・依頼データは自動ダウンロードされるため依頼業務の会計処理，またはデータ修正の場合を除き T-LINES-ILL を操作する必要がなく，作業を効率よく進めることができる。(図－2)

2.3　ILL データの一元管理と統計

郵送やファックスによる依頼や受付けたデータを一元的に管理するため，その全てをローカル ILLDB に登録している。入力方法は2種類用意されており，ひとつは依頼または受付けの段階で入力する方法と，すべての処理が完了してから入力する方法とが選択で

きる。医学分館は後者の方法を採用している。

郵送・ファックスによるものが30～40%あり，そのデータ入力に多くの時間を要し担当者の負担となっている。受付件数の全てがNACSIS-ILLになれば作業効率を高めることが見込まれる。

これらのデータ入力により，NACSIS-ILLとのデータの一元的な管理が可能となり，会計的な統計や利用統計等の作成が容易になった。（図－3）

(1) 会計統計

① 「ILL使用額一覧表」：個人別，学部別に料金を集計し，ILL使用額の予算振替に利用することができる。

② 「文献複写収入実績表」：「国立学校特別会計収入見込額調」（4半期ごと），「国立学校特別会計概算要求書」等に利用する為に，現金収入，債権発生の金額を集計し，日付の範囲を指定して出力することができる。

(2) 利用統計

① 相互利用統計（JMLA加盟館相互利用統計を含む）

② 部局別利用者別依頼・受付件数一覧表

③ 館種別依頼・受付件数一覧表

④ 館別依頼・受付件数一覧表

医学図書館系は統計の要求が多く，特にJMLA対応の統計項目が用意されている。

医学分館では，これらの出力が可能となったため，従来は手作業で実行していた集計作業を省略することができた。また，会計関係の統計データは金額の誤りが許されないため，データの管理は「処理状況別リスト」等でチェックし，「ILLDBメンテ」でデータの修正を行っている。入力ミスを防ぐことは当然のことであるが，皆無にすることは不可能であるため，これらの機能は必要不可欠のものである。

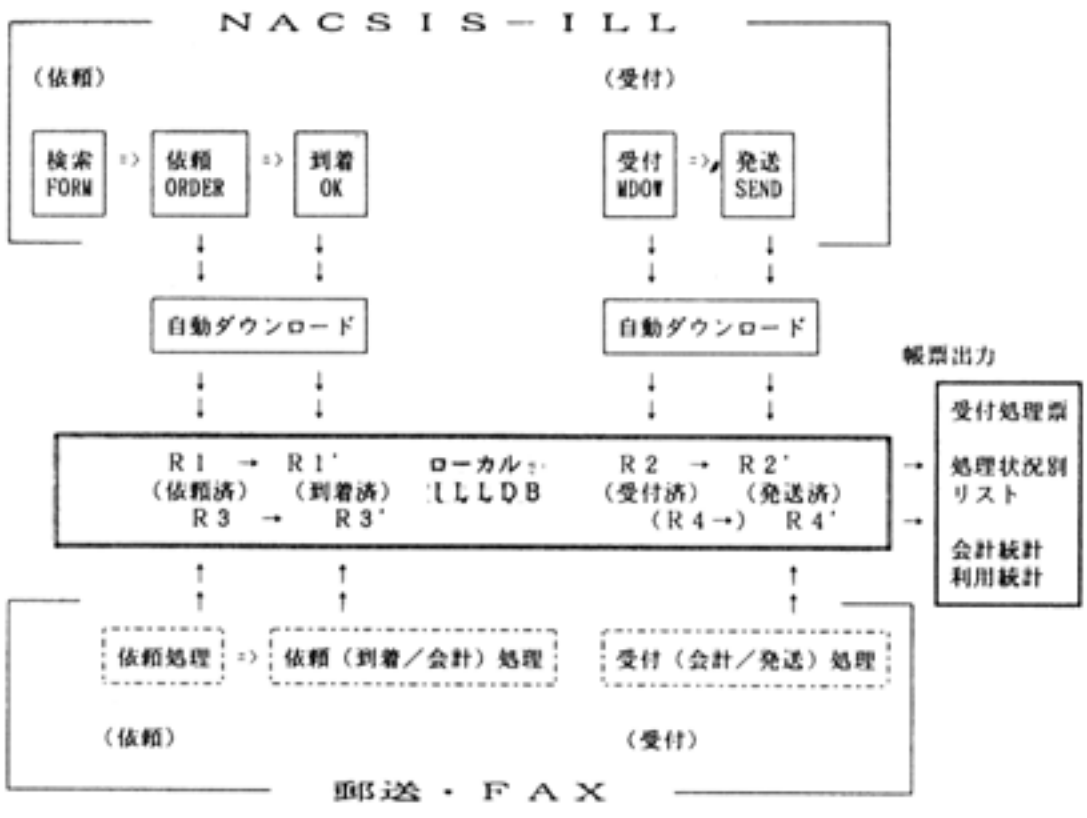

図-3 ローカルILLDB概略図

3. ILLローカルシステムのバグと仕様変更への対応

ＩＬＬローカルシステムの構成は，①ＵＩＰ，②ＩＦＦ，③オンライン処理系，④バッチ処理系に大別される。障害や仕様変更については，各システム構成間の原因特定に苦労した。また，メーカーやシステム開発担当者間の調整も必要だったのでその対応に苦慮した。後日，連絡の窓口が一本化され，対応が容易になった。

本システムは4月以降本格稼働に入ったが，新しいシステムの常としてシステム障害が発生し，原因究明に苦慮した。致命的だったのはUIPに障害が発見され，自動ダウンロード機能が使用できず，一件ずつファイル出力（ダウンロード）しなければならなくなりNACSIS-ILLからの取り込み忘れが発生したことである。4月半ばにUIP修正版がインストールされ，自動ダウンロード機能が使用できることとなったが，未だ障害が完全に除去されたとは言えず，10件未満の制限付きの利用となった。5月末，UIP再修正版（ver．6.02）がインストールされ制限無しの自動ダウンロードが使えるようになった。しかし，まれに自動ダウンロードに不具合が発生することもあり，未だ十分に安定したとは言えない状況である。その他のシステム障害については，6月にメーカー側が対応した。

バグ対応のなかで“取込忘れ”に対応する新しい機能等を追加した。

使い勝手に関しては，仕様変更として「システム開発プロジェクト」に提案し，検討したうえで，NEC汎用機系の大学の意見をも集約し，それにより日本電気との交渉が進められた。仕様変更については緊急度1と緊急度2とに振り分け，緊急度1については6月中旬に対応していただいた。緊急度2については日本電気が対応スケジュールを提案することになっている。

4. 第2年次開発計画

現在，学術情報センターはNACSIS-IRから文献複写依頼を行うことのできるシステムを開発中である。このシステムが完成すれば

研究者が研究室に居ながらにしてNACSIS-IRを検索し，直ちに文献複写依頼ができるようになる。このような仕組みはDIALOG等ではすでに実用化されているが，NACSIS-ILLのような非商用システムとして開発されることの意義は大きい。

ILLローカルシステムとしても，これに対応するための開発スケジュールを早急にたてなければならない。同時に東北大学では，「学内文献複写精算システム」とのシステム間関係も統合する必要があり，対応が急がれる。

日本電気は学術情報センターの第2年次計画に対応するスケジュールを提案することになっている。

5. さいごに

今後，相互利用がますます増加することと思われる。しかも，NACSIS-ILLの比重が増大することが見込まれ，それは我々の望むところでもある。T-LINES-ILLはそのための機能を用意しているからである。また，さらに使いやすいシステムに改良されることを望みたい。

参考資料

1. 学術情報センター「学術情報センターILLシステム操作マニュアル」(1992. 3)
2. 東北大学附属図書館「ILLシステム講習会説明資料」(1992. 3)

（あべ　けいいち）

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

記念資料室だより

今年も，来春停年を迎えられる先生方の研究業績（著書・論文のリスト）・肖像写真・履歴などをまとめた著作目録の作成にとりかかる時期になりました。この著作目録の作成は，研究・教育等を通じて本学の発展に寄与された先生への感謝の気持ちを形にするというところから，また本学（さらには近代日本）の学術研究史の基礎資料の作成を意図して，本室が設立された翌年（昭和39＝1964）に始められ，以来30年近く継続されてきた事業です。昨年度は，退官される先生34人のうち，希望された26人（他に名誉教授１名）の著作目録を作成し，これで通算485人分の冊子を作成したことになります。研究室や学部単位ではなく，大学全体でこのような事業を行っている例は，他にあまり無いものと思います。より充実したものにするためにも，多くの先生にご参加いただければと思います。なお，予算等の関係から，データは，MS-DOS テキストファイル形式で入力されたフロッピーでいただけると，大変助かります。

本室は，大学の公文書やメモはもちろん，著書・論文抜刷・手稿などの研究に関するもの，あるいは趣味に関するものまで，広く関係資料の収集をめざしています。ご退官を機会に，お持ちの資料をご寄贈いただければ，大変ありがたいです。なお，昨年度は，次の３先生から特に多くの資料をご寄贈いただきました。まず，法学部政治学の宮田光雄先生からは，『平和の思想史的研究』（創文社）はじめ多くの著書と肖像写真をご寄贈いただきました。また，教養部ドイツ語の中村啓先生からは，20部近くの論文抜刷と，句集『つぐみ』をご寄贈いただきました。そして工学部資源工学科の鈴木舜一先生からは，ご自身の研究成果（論文抜刷・報告書・地層図面など）とともに故庄司力偉先生・江口元起先生の資料もご寄贈いただきました。ここにあらためて御礼申し上げます。これらの資料は，昨年度末から新年度初めにかけて，本室２階の展示室で展示させていただきました。今年度も同様に，年度末から翌年度初めにかけて，停年を迎えられる先生について，ご寄贈いただいた資料を中心に，小展示を行いたいと考えておりますので，よろしくお願いします。

記念資料室も少しずつその存在を知られるようになり，「○○先生の教え子ですが，先生に関する資料はないですか」や「○○先生の写真はありませんか」といった問い合わせも多くなりました。しかし，記念資料室の資料の多くは，先生・職員・OB 諸氏の寄贈によって集まったものですので，寄贈資料が無いような場合は，お互いに残念な思いをすることになります。東北大学記念資料室の役割にご理解をいただき，資料収集等に，より一層のご協力をいただけますよう，この場を借りまして，広くお願い申し上げます。

附属図書館商議会商議員名簿

平成4年4月1日現在

所属	氏名	任期	所属	氏名	任期
図書館長	菊地和聖		歯学部教授	山田正	4. 4.1～5. 3.31
医学分館長	林典夫		薬学部教授	鈴木康男	4. 4.1～6. 3.31
北青葉山分館長	鳥羽良明		工学部教授	中鉢憲賢	4. 4.1～5. 3.31
工学分館長	守田徹		農学部教授	日黒熙	3. 4.1～5. 3.31
農学分館長	竹内昌昭		教養部教授	若林俊樹	4. 4.1～6. 3.31
事務局長	藤村和男		金研教授	小松啓	4. 4.1～5. 3.31
遺生研教授	菅洋	4. 5.1～6. 3.31	素材研教授	藤野威男	4. 4.1～6. 3.31
文学部教授	羽下徳彦	4. 4.1～5. 3.31	抗研教授	田中元直	3. 4.1～5. 3.31
教育学部教授	沼田裕之	3. 4.1～5. 3.31	科研教授	田中通義	4. 4.1～6. 3.31
法学部教授	太田知行	4. 4.1～6. 3.31	流体研教授	高山和喜	4. 4.1～5. 3.31
経済学部教授	鈴木良隆	3. 4.1～5. 3.31	通研教授	澤田康次	4. 4.1～6. 3.31
理学部教授	荻野博	4. 4.1～6. 3.31	反応研教授	寶澤光紀	3. 4.1～5. 3.31
医学部教授	佐藤洋	4. 4.1～6. 3.31			

第23回国立大学図書館東北地区協議会総会

標記会議が4月23－24日の2日間，東北大学附属図書館を会場として東北地区7大学より34名が参加して開催された。

協議に先立ち，東北大学菊地館長の挨拶があり，続いて慣例により会場館の菊地館長が議長に選出された。

出席者の自己紹介の後岩元部長より国立大学図書館協議会等の活動状況について報告があり，引続き協議会理事会からの審議付託事項及び第39回国立大学図書館協議会に提出する議題，要望事項等について協議の結果，東北地方から提出する議題，要望事項を次のとおり決定した。

1. 文部大臣に対する要望事項
   (1) 図書館施設の整備拡充について
   (2) 学術図書・雑誌等購入費の増額について
   (3) コンピューター，高速ファクシミリ及び関連装置等の整備促進について
2. 総会の分科会で検討するための協議題
   (1) 第1分科会
      1) ILLシステム稼働に伴う諸問題について
   (2) 第2分科会
      1) 留学生に対する図書館の対応について

なお，平成4年度の理事候補館及び所属部会，ならびに地区連絡館が，それぞれ次のとおり選出された。

理事候補館

宮城教育大学附属図書館（第1部会）
東北大学附属図書館　　（第2部会）

地区連絡館

東北大学附属図書館

人　事　異　動

発令年月日	旧官職	氏名	新官職	備考
4. 1. 1	文部事務官（情報管理課受入掛）	米沢　誠	文部事務官（情報管理課受入掛長心得）	昇任
2. 1		森村聡子	事務補佐員（農学分館図書掛）	採用
3.16	総務課庶務掛長	横内昭久	総務課課長補佐	昇任
3.31	附属図書館事務部長	矢野光雄		退職
4. 1	岡山大学附属図書館事務部長	岩元忠幸	附属図書館事務部長	配置換
〃	情報管理課長	兵永　朗	群馬大学附属図書館事務部長	昇任
〃	東京大学教養学部図書課長	大林重夫	情報管理課長	配置換
〃	総務課課長補佐	横内昭久	国立磐梯青年の家庶務課長	昇任
〃	理学部教務掛長	佐々木正一	総務課庶務掛長	配置換
〃	総務課システム管理掛長	佐藤義則	情報管理課逐次刊行物掛長	〃
〃	筑波技術短期大学教務第二図書係長	日出　弘	総務課システム管理掛長	〃
〃	情報管理課逐次刊行物掛長	佐々木勝義	北青葉山分館整理運用掛長	〃
〃	〃　受入掛長心得	米沢　誠	学術情報センター事業部データベース課文献データベース係長	昇任
〃	情報サービス課閲覧第一掛長	田代　寛	情報管理課受入掛長	配置換
〃	〃　参考調査掛長	村岡　徹	情報サービス課閲覧第一掛長	〃
〃	工学分館管理掛長	武田光佳	〃　参考調査掛長	〃
〃	文部事務官（情報サービス課閲覧第一掛）	星　政則	宮城教育大学附属図書館整理係長	昇任
〃		今出朱美	文部事務官（情報サービス課相互利用掛）	採用
〃	文部事務官（情報サービス課相互利用掛）	渡邊　彰	〃（総務課庶務掛）	配置換
4. 4.30	事務補佐員（総務課会計掛）	大寺　裕		退職
5. 1	文部事務官（情報サービス課閲覧第二掛）	塚田弘子	〃（工学分館整理・運用掛）	配置換
〃	〃（北青葉山分館管理掛）	米倉　進	〃（情報サービス課閲覧第二掛）	〃
〃	〃（工学分館整理・運用掛）	岩崎道子	〃（北青葉山分館管理掛）	〃
〃		星　けい子	事務補佐員（総務課会計掛）	採用
〃	事務補佐員（情報管理課洋書目録情報掛）	沼田正子	〃（情報サービス課閲覧第一掛）	配置換
〃	〃（情報サービス課閲覧第一掛）	米地晶子	〃（情報管理課洋書目録情報掛）	〃

図書館利用のオリエンテーションを実施

本館 AV 室において，4月9日から土・日曜を除く5日間新入生のための「図書館利用オリエンテーション」が開かれた。

これは，参考調査掛が毎年春に行っている行事のひとつで，内容はビデオテープ「図書館利用案内」の放映と，T-Lines 資料検索，端末操作説明で1時間毎に24回行なわれた。

ビデオテープは，図書館設備，資料の配置，貸出手続等が新入生によく理解出来るように構成されており，漱石文庫，狩野文庫等の紹介もあり，約25分のビデオ放映中，新入生達は熱心に見入っていた。端末による資料の検索法は，掛員によって OHP を使って説明された。

期間中にエントランスホールで，図書館利用証の交付も行われており，申請のついでに立寄る学生も多く，5日間で271人の参加があった。

会　議

◎学　内

4．4.16　第1回附属図書館商議会

協議事項

(1)　完全週休二日制に伴う図書館の対応について

(2)　東北大学における図書館資料の保存及び不用決定に関する検討委員会の設置について

報告事項

(1)　「晴山文書」のマイクロフィルム撮影について

(2)　狩野文庫について

◎学　外

4．1.24　ILLシステム全国説明会（東北地区）　（於：附属図書館）

4．6.18　東北地区大学図書館協議会幹事会　（於：附属図書館）

4．6.24～26　国立大学図書館協議会総会　（於：帯広市）

4．7.13　外国雑誌センター館会議　（於：文部省）

お　知　ら　せ

○完全週休二日制実施に伴う図書館サービスについて

本年5月から国家公務員の完全二日制が実施されることになりました。附属図書館本館では土曜日の図書館サービスについて，つぎの通り試行することになりましたので，お知らせいたします。

1.　時間外閲覧業務の試行

原則として土曜日の時間外閲覧業務を半年程度試行する。

2.　サービス時間

授業実施期間　9：00～17：00

夏期休業期間　9：00～12：30

3.　サービスの内容

学生閲覧室・自由閲覧室での閲覧・自習

なお，貸出・返却等は，平日（月～金）にお願いします。

○平成4年度総合研修委員きまる

今年度の総合研修委員の選挙が，去る5月25日～26日の両日実施され，下記の5名が選出された。

館長より委員の委嘱をうけ，この一年間職員のための研修計画と実施に活躍されることが期待されている。

南館義孝　　対馬庸二

藤沢和子　　小野元子

菅野博之

編　集　後　記

本号はこの四月から稼働したＩＬＬシステムを特集しました。一昔前の図書館の概念からは，想像もつかなかったような事が，コンピュータの進歩で次々と実現されてゆきます。

「資源の共有」がＩＬＬの基本理念であるなら，地球的規模で環境問題が問われている今，海外の主要大学図書館との間での相互協力や，オンライン蔵書検索も決して夢ではないかもしれませんし，又その次元まで高めていただきたいと，期待するものです。

汗をかきながら，編集作業をすすめてきましたが，急に涼しい日が続くようになりました。秋はもうそこまで，忍び足でやってきているようです。

次号では晴山文書等の古文書を特集する予定です。

東北大学附属図書館報「木這子」　第17巻　第1号（通巻61号）　発行日　平成4年7月31日

発　行　人　岩元忠幸　　広報委員長　佐藤　嗣

発　行　所　東北大学附属図書館　仙台市青葉区川内　電話 代表　222-1800（2403）